
虫とムクドリとライオン

シャロク坊主

タテ書き小説ネット Byヒナプロジェクト

<http://pdfnovels.net/>

注意事項

このPDFファイルは「小説家になろう」で掲載中の小説を「タテ書き小説ネット」のシステムが自動的にPDF化させたものです。この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「小説家になろう」および「タテ書き小説ネット」を運営するヒナプロジェクトに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

虫とムクドリとライオン

【Nコード】

N8114P

【作者名】

シャロク坊主

【あらすじ】

毒虫を食べたムクドリの死骸を食べるか否かについての、ライオンと人間とハゲワシの対話と思索。

虫が七匹いました。三羽のムクドリが飛んできました。ライオンが一匹隅っこで寝そべています。ムクドリはこぞって虫を食べ始めました。虫には毒がありました。ライオンはムクドリの死体を見て、こいつを食べたら俺も死ぬのだろうと思いました。でも他に食べるものはありません。

人間が外からそれを見て、「ムクドリが虫を食べる前に飛びかればよかったんだ。そしたらお前も虫も助かったのに」と言いました。でもライオンは虫のことなんてどうでもよかったし、その時はお腹も大して空いていませんでした。「怠惰な奴め」と人間は言いました。

ライオンは起きていても仕方がないので眠ることにしました。起きると夜になっていました。人間は家に帰り、代わりにハゲワシがやってきました。ハゲワシはムクドリの死体を食べようと思いました。ライオンはそれを黙って見ていました。

ハゲワシは、まだ臭いの薄い死体をライオンが食べないことをいぶかしみました。「これ、喰えないのか」ライオンは頷きました。ハゲワシは「ならお前、何を喰ってるんだ」と尋ねました。ライオンは答えませんでした。ハゲワシは、「お前が死んだら喰うぞ」と言いました。

ライオンとハゲワシは、ムクドリの死体を挟んで向かい合い続けました。ライオンは、目玉をつつかれるかと思うと、眠るのが嫌になってきました。立ち上がって、ムクドリに向かって静かに歩き、

死体を口にくわえます。

ハゲワシが「いよいよ自殺するのか」と胸を熱くさせた刹那、ライオンは頭を振って、ムクドリ之死体をハゲワシに投げつけました。ハゲワシはなんとかそれを避けましたが、続く巨大な爪の餌食となり、ライオンに食べられました。

ライオンはハゲワシのか細い肉を頬張りながら、ハゲワシだつて何を食べてるかわかったものじゃないかと考えました。そう思うと、なんだかムクドリだつて食べられるような気がしてきました。なんだ、俺の未来は明るいじゃないかと、ライオンの顔がほころびました。

(後書き)

いつぞやツイッターで書いたついのべをまとめたものです。
コピペする程度には気に入っています。
流れ去るものへの供養でございます。

PDF小説ネット発足にあたって

PDF小説ネット（現、タテ書き小説ネット）は2007年、ルビ対応の縦書き小説をインターネット上で配布するという目的の基、小説家になるうの子サイトとして誕生しました。ケータイ小説が流行し、最近では横書きの書籍も誕生しており、既存書籍の電子出版など一部を除きインターネット関連に横書きという考えが定着しようとしています。そんな中、誰もが簡単にPDF形式の小説を作成、公開できるようにしたのがこのPDF小説ネットです。インターネット発の縦書き小説を思う存分、堪能^{たんのう}してください。

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
<http://ncode.syosetu.com/n8114p/>

虫とムクドリとライオン

2011年1月3日20時03分発行